

指定校番号	30017	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	小田原 まゆみ	生徒指導主事	倉田 瑞穂
-----	-----------	----	---------	--------	-------

取組事例名 『自分を大切にし、他者を大切にする生徒指導』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感力」	1	「感謝の心」	3	「本気力」	2

取組のねらい『キーワード：自他を大切にする』

学級交流・異学年交流を通して、児童が主体的にかかわる中で、積極的な生徒指導の取組を行っていく。その取組を通して、自他の良さに気づき、認め合い、学び合える児童の育成を目指していく。

取組の具体的内容『キーワード 学級集団 異学年集団 ペア学年』

I 構成的グループエンカウンター
月に1回、構成的グループエンカウンターを学級で行っている。
5月末に行うQ-Uの調査結果を基に、生徒指導主事を中心に学級や学年の実態に応じた内容を計画した。Q-Uの結果をもとに、自己肯定感や自己有能感、他者理解についての内容を中心に計画をし、また、児童の実態に応じてその時々課題に応じた内容に変更しながら行った。

II 異学年交流（たてわり班活動）
社会性の基礎を培う為に、異学年交流（たてわり班）による活動を重視している。
「あんな6年生のようになりたい。」という憧れは、児童の自律的な成長を促すきっかけとなる。また、低学年に丁寧に説明し、お世話をする経験を通して、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができたというリーダーとしての自覚や自己有用感を感じることができる。同時にお世話される側は、感謝の心をもつことができる。

①たてわり集会（月1～2回）
②たてわり給食（年1回）
③たてわり掃除（毎日）
④たてわり遊び（年1回）
⑤たてわり6送会（年1回）

III 異学年交流給食
学期に2回、ペア学級の2学級の異学年集団で給食時間を過ごしている。給食委員会と給食係児童のつながりある活動で運営し、高学年のリーダーシップと低学年の高学年を手本とした成長を促す場となっている。会場の準備や司会進行、楽しむ場の設定（自己紹介・クイズ等）を通して、自分の役割や各自の出番のある時間を過ごすことにより、人と関わる喜びを感じられる時間を過ごすことができている。



取組の課題・創意工夫『キーワード：組織としての教職員集団』

I 構成的グループエンカウンター
月に1回行う際に、生徒指導主事がTTとして担任と一緒に授業を行ったり、構成的グループエンカウンター資料を配布したりした。

II たてわり班掃除
清掃指導担当の保健体育部とたてわり班担当の生徒指導部がそれぞれ役割分担を行い、主任・主事を中心に、各部内で実施計画を何度も練り合った。それぞれの部で話し合い教職員全員が計画に参加することで、全員が同じ方向性で取り組むことができた。また、初めての試みだったので、最初の1ヶ月間は、何度も部内で集まり課題や改善策を話し合い柔軟に変更をしながら行った。

Ⅲ 異学年交流給食

交流にあたり、担任・担当（栄養教諭）間での事前打ち合わせを行うことにより、互いの学級の様子を話したり、取組によって他学年の児童の様子を知ったりする機会となっている。事前・事後指導の反省や児童のひとこと感想（班ごと）を踏まえて、異学年交流活動の在り方について校内で研究協議していく必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード：やってよかった』

I 構成的グループエンカウンター

2回目のQ-U調査を1月末に行うので、まだ数値としての結果は未定である。

【児童の振り返り】

- ・友達が自分の良いところをたくさん見つけてくれて嬉しかった。
- ・やっぱりこのクラスで良かった。
- ・友達の得意なことを知ることができておもしろかった。

これらの振り返りから、自己肯定感や他者理解が高まったと考えられる。

II たてわり班掃除

6年生がリーダーとなり掃除をすることで、全校が一生懸命に掃除に取り組む姿が見られた。

【児童の振り返り】

- ・自分がリーダーとして、きちんと指導しないといけないし、見本となる行動を取らなければならないので、成長することができた。
- ・違う学年の子と仲良くなることができた。
- ・学級でやるより学校がきれいになった。
- ・6年生が掃除を教えてくれたのでうれしかった。



Ⅲ 交流給食

- ・高学年として低学年を引っ張る姿が見られた。
- ・リーダーとしての自覚や達成感を味わうことに繋がっている。
- ・来年は、自分たちがリーダー役をすることになるので、リーダーの姿を意識してみようとした。



今後の展開『キーワード：卒業してほしくない6年生、6年生0学期』

今年度も残り2ヶ月となり、それぞれ次の学年に進級する。6年生は、「卒業して欲しくない6年生」と言われるように最後の取組を行っていく。5年生は、6年生0学期として「6年生として何をしなければならないのか」「どんな6年生になりたいか」を考えながら取り組んでいく。

また、たてわり交流の集大成として、6年生を送る会の中で「たてわり給食」を行い、これまでの感謝の気持ちを6年生に伝える行事を行う。

他教科との関わり『キーワード：対話』

全ての教科で「教材との対話」「他者との対話」「自己との対話」を生み出す工夫をした授業を行い、段階的、効果的な場の設定をしている。